

第1回 松田町総合戦略審議会 議事録

1. 日 時 令和6年8月8日（木）9:30～11:00
2. 場 所 役場4階会議室
3. 出席者 委 員：別紙「委員等名簿」のとおり（栗林委員欠席）
町 側：別紙「委員等名簿」のとおり
事務局：政策推進課（鍵和田課長補佐兼係長、鎌田主査）
4. 配付資料
 - ・次第
 - ・松田町総合戦略審議会委員等名簿（資料1）
 - ・松田町総合戦略審議会設置要綱（資料2）
 - ・国・県のデジタル田園都市国家構想総合戦略（資料3）
 - ・松田町の人口の現状と推移（資料4）
 - ・（松田町人口ビジョン・総合戦略策定）スケジュール（資料5）

【概要】

司会進行（鎌田主査）

1. 開 会
 2. 委嘱状交付
 3. あいさつ
 4. 委員紹介
 5. 副会長の選任
 6. 議事
 - (1) デジタル田園都市国家構想総合戦略について
 - ・事務局（政策推進課）より、デジタル田園都市国家構想総合戦略（資料3）についての説明を行う。
 - ・支援委託事業者（都市計画センター）より、デジタル田園都市国家構想総合戦略についての詳細説明を行う。
- 古館 会長：資料3のP5について、次回以降の協議になるかと思うが、計画名称が変わる可能性があるのか。
- 事 務 局：その予定である。国の資料に例示があるのでこちらを参考に考えていきたい。
- 西田 委員：松田町のデジタル化に関して、方針や計画などの説明がなかったように思うがあれば教えて頂きたい。周辺地域のデジタル化状況をまとめた資料などもあればご提供頂きたい。
- 事 務 局：庁内ではデジタル化の推進に向けた協議会を昨年度立ち上げているが、現状策定している方針や計画はない。周辺地域のデジタル化状況についても本日まとまった資料の用意がないため次回以降提示していきたい。

(2) 松田町の人口の現状と推移について

- ・事務局（政策推進課）より、松田町の人口の現状と推移（資料4）及び松田町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略（2020改訂版）についての説明を行う。
- ・支援委託事業者（都市計画センター）より、松田町の人口の現状と推移（資料4）及び松田町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略（2020改訂版）についての詳細説明を行う。

古舘 会長：資料4のP5について、15～19歳から30～34歳の若い女性の流出が2000年代前半のときに比べ近年かなり抑えられているが、これはどういった要因で変化したと考えられるか。

事務局：P3に戻っていただきますと、グラフから見られる転入転出のトレンドとして平成16年代に比べて令和4年では若干右肩下がりとなっている。これは町全体の傾向として転入転出が少なくなってきたということであり、そういった中で女性の転出についても前ほど深い溝になっていないのではないかと考えられる。そして2015～2020年というのは全ての期間ではないが『コロナウィルスの流行』というのも社会的な要因の一つとなり、それらが複合的な要因となって結果に結びついたのではないかとと思われる。

西田 委員：合計特殊出生率の推計を見られる資料はあるか。

事務局：資料をお持ちするので少々お時間を頂きたい。

古舘 会長：町の人口が減少しているというのは我々としても非常に心配しているところであるが、隣の開成町では人口が増加している。これはどういった部分で差が出ているとお考えか。

田代副町長：開成町と比較し、施策などについては松田町も見劣りしていないように思われる。逆に松田町の支援策の方が優れている面もある。

開成町との大きな違いというと1つは基盤整備などが考えられる。開成町は新しいまちづくりがしやすい地域であるが、松田町では100年という歴史の中で古いまちが形成されており、更新していくことが難しかったことが考えられる。現在、機能の向上ということで新松田駅前整備を進めているが、そういった基盤整備的な部分も要因になっているのではないかと捉えている。

子育て世代の方々からの意見を伺うとやはり「公園」などの子育てをしやすい環境を求める声が多くなっている。その点で開成町は新しく整備を進めることができる土地環境であったため、PRも含め、非常に今の時代に合っているのだと考える。

松田町では空き家、空き地の利用というものも手掛けているが、まちの基盤整備というところでは開成町とまちの形成の仕方という部分で違いが出ていると考えられる。

鈴木 参事：開成町の人口動向をみると松田町との一番大きな違いは令和3年度において出生が142人となっており、令和4年度についても143人、令和5年度は149人という出生になっている。一方で死亡については令和3年度に144人、今年度が173人ということで推移的には松田町と同等である。転入転出についてもそれほど大きな違いはないが、出生の部分において開成町は非常に高いということで直接担当部署に確認したところやはり環境との回答があった。施策がどうあれ、求めている環境に適しているというところから転入数が増えているという結果になっている。

子育て世代の支援策ということで、合計特殊出生率が高かった地域の中で岡山県奈義町という地域があり、奈義町長が松田町に視察に来た際、どのように合計特殊出生率が高くなっているのかという現状と町の施策との照らし合わせをした中で、松田町の方が子育て支援については手厚く行われているという結果であった。その中で、地域が子育て世代にどれだけ関わり、一緒に取り組んでいるかというところが大きな違いであったと分析している。取り組みは同じだが、子どもを預かることを地域の人が行っているなど地域の人を巻き込んで行う事業展開がなされていると感じており、松田町にとっても新たな展開の一つと考えているため、引き続き子育て支援策の提案に取り組んでいきたいと考えている。松田町の合計特殊出生率については令和3年度が1.06と示されている。減少傾向にあったが、令和元年に一度上がったこともある。町として要因と課題が何かと分析した上でICT機能を活用しながら取り組んでいくことのできる計画にしたいと考えている。

事務局：直近の令和3年合計特殊出生率1.06、令和2年が1.08、令和元年は1.15となっている。一方で総合戦略のP39を見て頂くと、合計特殊出生率の令和6年度目標数を定めており、そちらについては1.32という出生率を掲げている。令和6年度では1.32ということで現状は1.06と、厳しい数値となっているというところである。

西田 委員：合計特殊出生率の数値が低い理由として婚姻数が少ないことが要因の一つにあると思うが、松田町の婚姻に対する支援策などどういったことが行われているか知りたい。

重野 係長：結婚の数が全国的に減っており、それに伴い子どもの数も減っているという新聞記事は皆さんもご覧になっていると思うが、婚姻に関する支援事業としては内閣府で推進している、結婚新生活支援制度というものがある。どういう制度かという、経済的な理由で結婚に踏み切れない人を支援するメニューがあり、新婚世帯の方々に住居費の一部を支援するという取り組みをしており、それを過年度から始めているというような状況がある。

鈴木 参事：未婚率について20～40代の男女について平成27年～令和4年の間で上昇傾向にあり、全国で同じ傾向にある。先ほど合計特殊出生率について、町としては子育て世代の環境の整備として「住む場所の確保」、「子育て世代の継続的な支援」、「子育てを応援する体制の整備」、「子育ての悩みや喜びが共有できる相談体制」など、子どもが育てやすい町にするような施策に取り組んでいる。また、結婚に関して、平成28、29年に、婚活事業を推進したこともあるが、当時定住少子化担当室で行ったがなかなか婚姻まで結び付けるのは厳しい結果となった。冒頭で副会長が言った通り、支援策の周知を積極的に行っていきたいと考えている。

(3) スケジュールについて

- ・事務局（政策推進課）より、松田町人口ビジョン・総合戦略策定スケジュール（案）（資料5）についての説明を行う。
- ・支援委託事業者（都市計画センター）より、松田町人口ビジョン・総合戦略策定スケジュール（案）（資料5）についての詳細説明を行う。

古舘 会長：令和6年度は4回審議会を開催していくということで、通常は総合戦略を策定致しますと数値目標に沿ってそれがどのように達成されているかという評価が年に1回ほどありますが、それに比べると4回と回数が多く恐縮ですが、第3期の総合戦略を策定するという作業があるため、何卒ご協力をお願いしたい。

(4) その他

- ・特になし

古舘 会長：今回、副会長に選任された重田様よりご挨拶として、県が総合戦略を作成したという記事が最近広報などに掲載されていたが、総合戦略等についてのお話を含めご挨拶頂きたい。

重田副会長：県の総合戦略ですが、神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略（概要）の1ページの表がよくまとまっているが、人口減少、高齢化社会という課題の中で自然増・社会増のビジョンに向けた対策として、基本目標1つ目が「神奈川県の成長力を生かして魅力的なしごとを産み出し、一人ひとりが生き生きと働ける社会を創る」、2つ目が「国内外から神奈川県への新しいひとの流れをつくる」、3つ目が「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、神奈川の未来を担う子供たちを育てる」、4つ目が「活力と魅力あふれる持続可能なまちづくり・誰もが活躍できる地域社会づくりを進める」、この中で本日話題にでた県西地域の関連するところ少し話させて頂くと、基本目標2の「国内外から神奈川県への新しいひとの流れをつくる」の中の（2）「地域資源を活用した魅力づくり」という項目を掲げさせて頂いている。この中で県西地域の活性化プロジェクトというのも記載されている。また基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、神奈川の未来を担う子供たちを育てる」についても、結婚に向けた取組みに関してどういったものがあるかというところで、事務局からも先ほどお話し頂いたが、結婚というところで「かながわで恋する×かながわに恋する 恋カナ！プロジェクト」を推進している。今年度も結婚希望者が1歩を踏み出せるよう、マッチングの機会を設けて取組んでいる。直近では9月7日に小田原で婚活イベントを開催する予定となっている。

松田町も総合計画に沿って総合戦略を策定しているということで、神奈川県も今年から新たな総合計画が始まり、それに合わせて総合戦略も始動している。また、県西地域活性化プロジェクトについても第3期ということで今年度、3つの計画が走り始めることとなっている。

近年、コロナの関係で前向きな取組みができず、リモートワークが流行したこともあり、社会増というようなトレンドもあったと思う。コロナが5類になり1年ほど経ち、日常が取り戻されていく中で都心回帰というところがどれほど起こるのか、今後注目していかなければならない。

また、国の施策の展開として総合戦略に位置付けた支援制度を設けていくとい

う流れが出てくるかと思う。今後展開される松田町の総合戦略については、なるべく読み込めるような総合戦略を考えていくのが得策なのではないかと考えている。

私自身、この4月から県西地域県政総合センター企画調整部長に就いたばかりだが、これから勉強しながらこの審議会に微力ながら協力させて頂きたいと思っている。

7. 閉 会